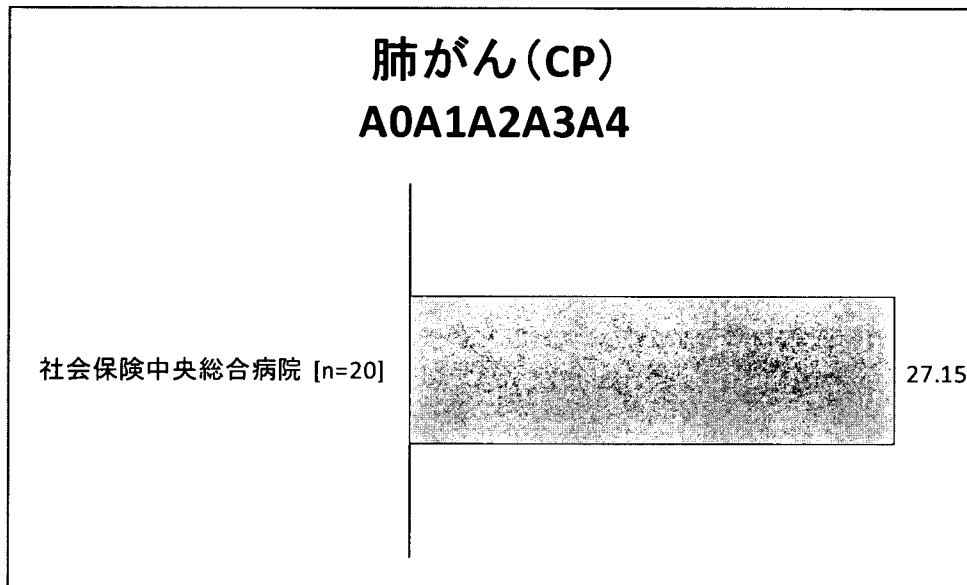
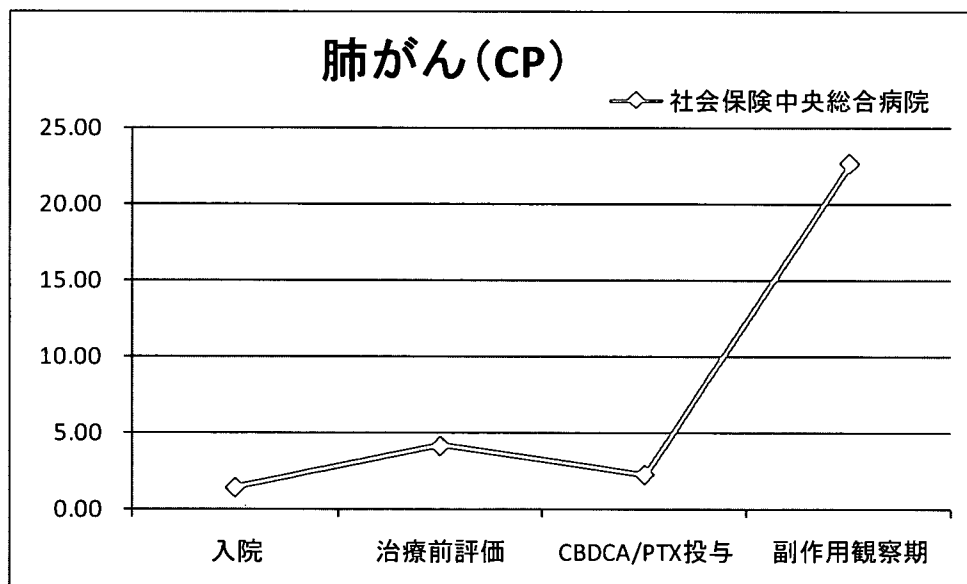


## 【中間集計】



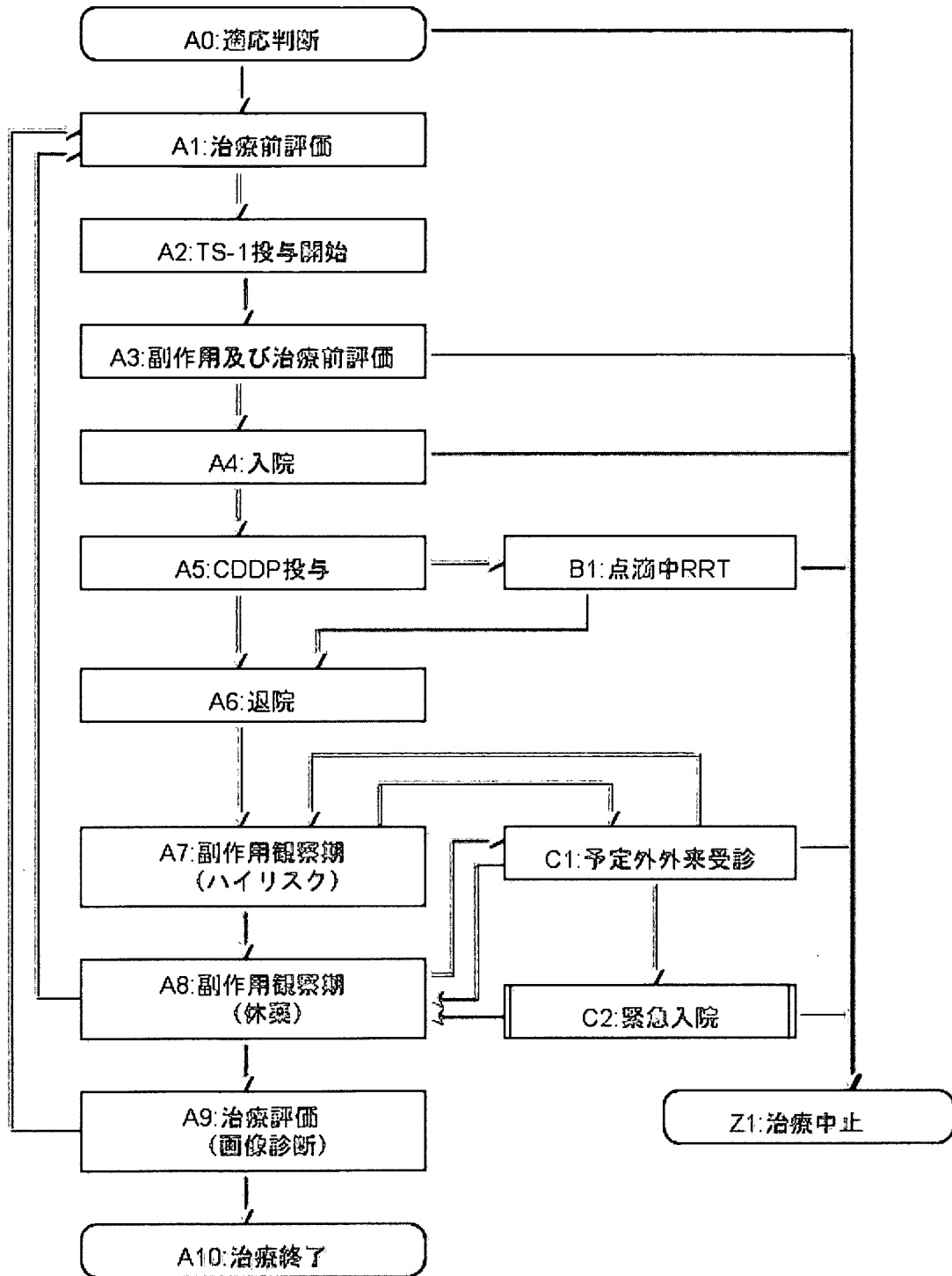
肺がん化学療法(CP)の平均在院日数比較



肺がん化学療法(CP)のユニット滞在日数比較

# 【中間集計】

胃がん TS-1/COOP



# 【中間集計】

## 移行ロジック一覧 胃がん (TS1\_CDDP)

2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0: 適応判断	TS-1/CDDPパス適応基準を満たす and 化学療法に対する意欲が見られる TS-1/CDDPパスの適応基準を満たさない	A1: 治療前評価 Z1: 治療中止	
A1: 治療前評価	TS-1/CDDP投与開始基準を満たす and 血液毒性および非血液毒性ともにCTCAE grade 1以下に回復している and/or 主治医の判断	A2: TS-1投与開始	
A2: TS-1投与開始	TS-1が処方される 入院が可能である 治療継続が困難なRRT	A3: 副作用及び治療前評価 A4: 入院	
A3: 副作用及び治療前評価	原疾患がPD or 患者さんの治療継続中止希望 or 主治医の判断	Z1: 治療中止	
A4: 入院	CDDP投与基準を満たす and/or 主治医の判断 治療継続が困難なRRT or 原疾患がPD or 患者さんの治療継続中止希望 主治医の判断	A5: CDDP投与 Z1: 治療中止	
A5: CDDP投与	CDDP投与が終了し外来で治療継続が可能である 以下の項目に該当するもしくは下記以外の想定外の事象の出現 ・発熱 (CTCAE Grade 1以上 38°C以上の発熱) ・低血圧 (CTCAE Grade 2以上 短時間の輸液などの治療を要する; 生理機能に影響なし) ・呼吸困難 (CTCAE Grade 1以上 労作時呼吸困難) ・低酸素血症 (酸素飽和度がベースラインより低下する (CTCAE grade 2以上 労作時の酸素飽和度の低下)) ・皮疹 (CTCAE Grade 1以上) ・アレルギー反応 (CTCAE Grade 1以上)	A6: 退院 B1: 点滴中RRT	
A6: 退院	退院が完了する TS-1内服が終了する	A7: 副作用観察期 (ハイリスク) A8: 副作用観察期 (休薬)	
A7: 副作用観察期 (ハイリスク)	以下の項目及び想定外の事象の出現 ・嘔気・嘔吐 (PS 2以上; 連続して3回以上の嘔吐がある場合; 嘔吐後に吐気が持続し、経口摂取が困難である; 高度の脱水がある) ・発熱 (PS 2以上; 飲水を含めた経口摂取が困難である; 指示の抗生剤内服が出来ない; 指示の抗生剤内服後、3日目の時点で発熱の改善を認めない) 下痢 (PS 2以上; Grade 2以上の下痢; 経口摂取不能; 高度の脱水)	C1: 予定外外来受診	
A8: 副作用観察期 (休薬)	前回の治療からDay 36以降で、治療の意志をもって来院できる。 前回の治療中に治療中止に相当する副作用の出現を認めていない。 2コース治療の治療ごとを目安に画像評価を施行 下記の項目に該当するもしくは想定外の事象の出現 ・嘔気・嘔吐 (PS 2以上; 連続して3回以上の嘔吐がある場合; 嘔吐後に吐気が持続し、経口摂取が困難である; 高度の脱水がある) ・発熱 (PS 2以上; 飲水を含めた経口摂取が困難である; 指示の抗生剤内服が出来ない; 指示の抗生剤内服後、3日目の時点で発熱の改善を認めない) 下痢 (PS 2以上; Grade 2以上の下痢; 経口摂取不能; 高度の脱水)	A1: 治療前評価 A9: 治療評価 (画像診断) C1: 予定外外来受診	
A9: 治療評価 (画像診断)	前回の治療からDay 15以降で、治療の意志をもって来院できる。 前回の治療中に治療中止に相当する副作用の出現を認めていない。 医師の判断 (レジメン上の明確な規定はないため、病状・副作用・患者の身体および精神状態を含めた総合的な判断による)	A1: 治療前評価 A10: 治療終了	
B1: 点滴中RRT	点滴中RRTより回復する 治療継続が困難なRRT or 原疾患がPD or 患者さんの治療継続中止希望 or 主治医の判断	A6: 退院 Z1: 治療中止	
C1: 予定外外来受診	外来での治療継続が可能であると判断される (TS-1継続) 外来での治療継続が可能であると判断される (TS-1中止) 外来での治療が困難と判断される 治療継続が困難なRRT or 原疾患がPD or 患者さんの治療継続中止希望 or 主治医の判断	A7: 副作用観察期 (ハイリスク) A8: 副作用観察期 (休薬) C2: 緊急入院 Z1: 治療中止	
C2: 緊急入院	外来での治療継続が可能な状態となる 治療継続が困難なRRT or 原疾患がPD or 患者さんの治療継続中止希望 or 主治医の判断	A8: 副作用観察期 (休薬) Z1: 治療中止	

## 【中間集計】

胃がん(化学療法)パス適応基準 TS-1/CDDP
TS-1/CDDP療法の適応基準を満たす
TS-1/CDDP療法の除外基準を認めない
TS-1/CDDP療法を受けることに同意している

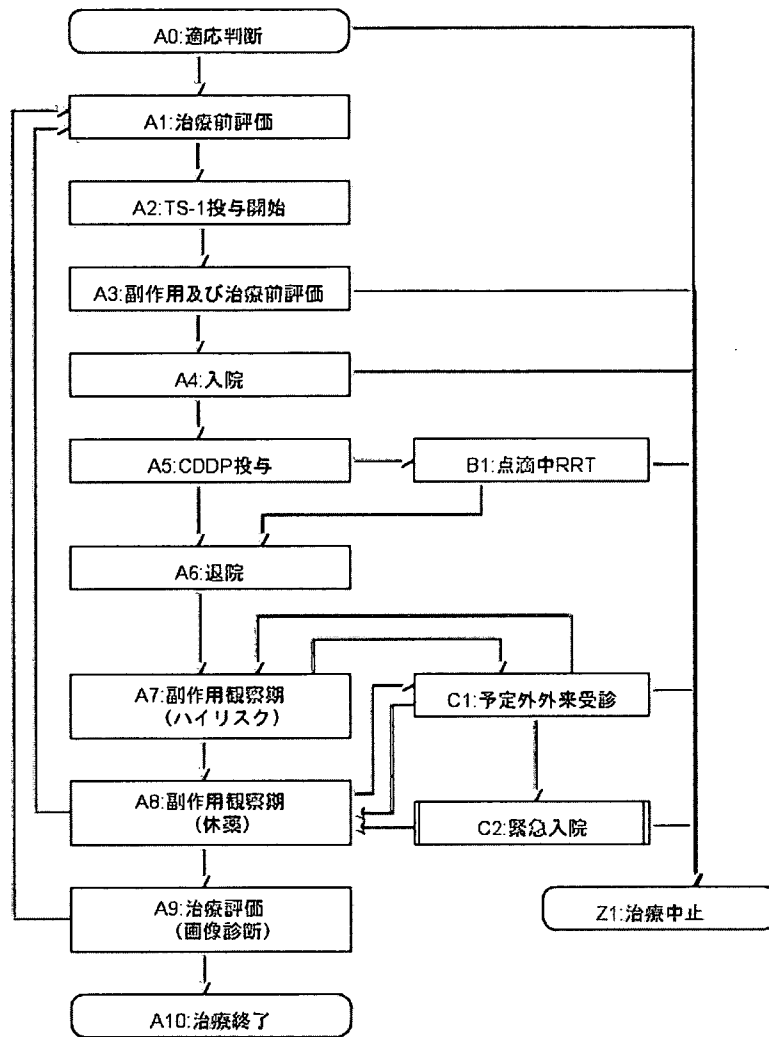
TS-1/CDDP適応基準
切除不能もしくは再発胃がんである
組織学的に腺がんであることが確認されている
Performance statusが0-2である
主要臓器機能が保たれている
TS-1/CDDP開始基準に準ずる

TS-1/CDDP除外基準
化学療法に使用する薬剤にアレルギーがある
日常生活に影響を及ぼす末梢神経障害を有する
活動性のある感染症を有している
重篤な合併症を有する:下痢・消化管出血病変・高度心機能障害など
他の抗ガン剤による治療を施行されているもしくは前回の治療の治療関連毒性から回復し 妊婦あるいは妊娠している可能性がある

TS-1/CDDP開始基準
Performance statusが0-2である
主要臓器機能が保たれている
骨髄機能:WBC >3000/mcl, Plt >100000/mcl
肝機能:T.Bil <2.0mg/dl, AST <100IU/l, ALT <100IU/l
腎機能:Cre <1.2mg/dl, Ccr >50ml/min
前回までの治療関連毒性が血液毒性でGrade 3以下かつ非血液毒性でGrade 2以下である
活動性のある感染症を有しない
患者さんがTS-1/CDDP療法を受ける意志がある
医師により治療開始が可能と判断される
前回の治療効果判定が増悪ではない

CDDP投与基準
Performance statusが0-2である
主要臓器機能が保たれている
骨髄機能:WBC >3000/mcl, Plt >100000/mcl
肝機能:T.Bil <2.0mg/dl, AST <100IU/l, ALT <100IU/l
腎機能:Cre <1.2mg/dl, Ccr >50ml/min
活動性のある感染症を有しない
医師により治療開始が可能と判断される

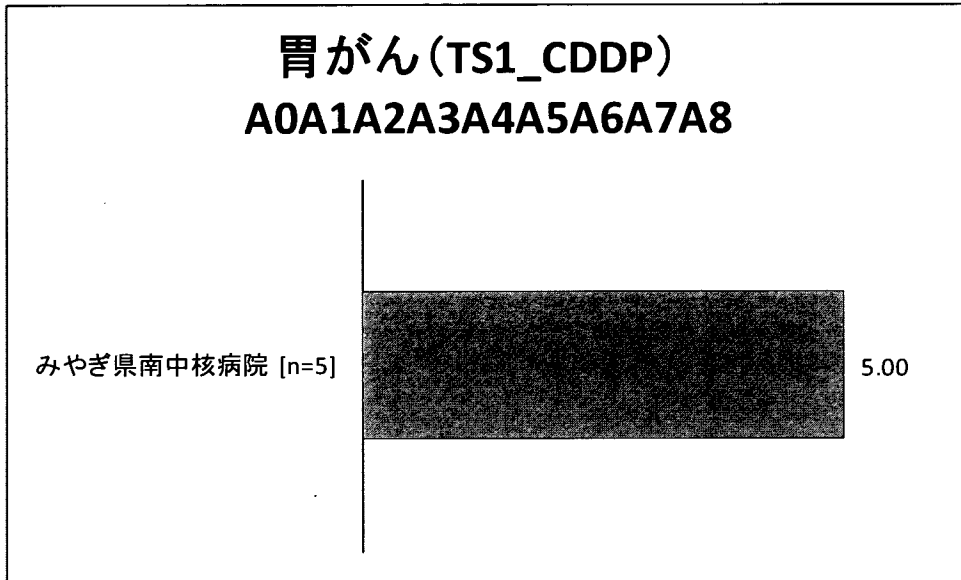
## 【中間集計】



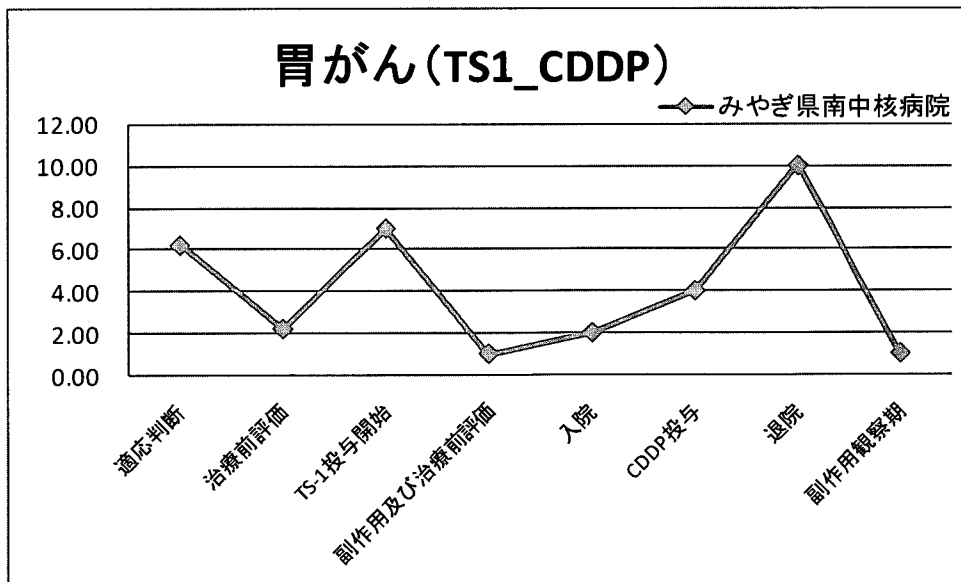
胃がん TS-1/CDDP の経路パターンとカバー率

パス	ルート	件数	%	カバー	カバー率
胃がん (TS1_CDDP)	A0-A1-A2-A3-A4-A5-A6-A7-A8	5	100.0%	○	100.0%
	計	5	100.0%		

# 【中間集計】



胃がん TS-1/COOP の平均在院日数比較



胃がん TS-1/COOP のユニット滞在日数比較

## 5. 成果報告一覽

#### 【2007年度 統括班業績】

- ・ 飯塚悦功：組織知の構造化，第27回医療情報学連合大会 シンポジウム「医療における組織知と経営」，神戸，2007/11/24
- ・ 水流聡子：臨床知識の可視化・構造化・標準化-組織知としての患者状態適応型パスコンテント-，第27回医療情報学連合大会 シンポジウム「医療における組織知と経営」，神戸，2007/11/24
- ・ 棟近雅彦：組織知の共有手段としての質マネジメントシステムと標準化，第27回医療情報学連合大会 シンポジウム「医療における組織知と経営」，神戸，2007/11/24

#### 【2007年度 分担研究者・研究協力者業績】

- ・ 永井庸次：質中心経営管理のための組織知，第27回医療情報学連合大会 シンポジウム「医療における組織知と経営」，神戸，2007/11/24
- ・ 高橋真冬：脳卒中の予防と健康管理，西多摩医師会主催 市民ふれあいのつどい，東京，2007/11/21
- ・ 片岡秀之：気胸治療における患者状態適応型パスと従来パスとの融合の試み，第20回日本内視鏡外科学会，仙台，2007/11/19
- ・ 矢野真：患者状態適応型パス統合化システム開発。(PCAPS：Patient Condition Adaptive Path System)，第17回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 シンポジウムⅢ「呼吸ケアとクリニカルパス」，東京，2007/11/16
- ・ 福島瑠依子、棟近雅彦、金子雅明：治療標準化の方法論に関する研究，日本品質管理学会第37回年次大会研究発表会研究発表，名古屋，2007/10/26
- ・ Go Yoshida、Satoko Tsuru、Yoshinori Iizuka、Masahiko Munechika、Youji Nagai：Structuring Clinical Knowledge - Determination of the Structure of the PCAPS Unit Sheet -，Proc. 5th Asian Network for Quality Congress，韓国，2007/10/17
- ・ 永江浩史 田中良典、吉井慎一、水流聡子、棟近雅彦、飯塚悦功：急性結石性腎盂腎炎の患者状態適応型パス(PCAPS)の多施設検証調査と臨床現場での活用意義，第8回日本クリニカルパス学会学術集会，札幌，2007/10/6
- ・ 青儀健二郎、高嶋成光、河村進、新海哲：乳癌化学療法パスの新展開-患者状態適応型化学療法パスの作成と検証，第8回日本クリニカルパス学会学術集会，札幌，2007/10/6
- ・ 御子柴路朗、村木泰子、蒲生真紀夫：化学療法におけるクリニカルパス，第8回日本クリニカルパス学会学術集会，札幌，2007/10/6
- ・ 矢野真、片岡秀之、栗原正利、伊藤志門、奥村栄、伊藤宏之、宮澤秀樹：患者状態適応型パス統合化システム開発。(PCAPS：Patient Condition Adaptive Path System)，第11回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会，東京，2007/9/15
- ・ 吉田剛、水流聡子、飯塚悦功、棟近雅彦、永井庸次：患者状態適応型パスによる臨床知識の構造化 -検証調査を通じたユニットシート構造の特定と課題分析-，日本品質管理学会第



83 回研究発表会研究発表, 東京, 2007/5/26

- ・ 赤井亮太、水流聡子、飯塚悦功、棟近雅彦、吉井慎一：地域連携医療システムの構築－ケー  
ス地域における試行的運用と評価－, 日本品質管理学会第 83 回研究発表会研究発表, 東京,  
2007/5/26
- ・ 段ノ上秀雄, 水流聡子, 棟近雅彦, 飯塚悦功, 金子雅明：全国標準を目指す総合医療電子シ  
ステム(PCAPS)に必要なマスター開発方法の検討, 日本品質管理学会第 83 回研究発表会研究  
発表, 東京, 2007/5/26
- ・ 藤井仁美、調進一郎、朝比奈崇介、西田賢司、住友秀孝、大野敦、名和知久礼、松下美加、  
原義人、宮川高一、植木彬夫、菅野一男、貴田岡正史、門脇孝：患者状態適応型パス統合シ  
ステム(PCAPS)によるシックデイパス作成の試み, 第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会,  
仙台, 2007/5/26
- ・ 菅野一男、朝比奈崇介、宮川高一、植木彬夫、原義人、貴田岡正史、調進一郎、西田賢司、  
松下美加、住友秀孝、大野敦、名和知久礼、藤井仁美、門脇孝：患者状態適応型パス統合シ  
ステム(PCAPS)によるステロイド治療時の糖尿病治療の標準化の試み, 第 50 回日本糖尿  
病学会年次学術集会, 仙台, 2007/5/26
- ・ 松下 美加、西田賢司、朝比奈崇介、住友秀孝、名和知久礼、大野敦、調進一郎、藤井仁美、  
菅野一男、原義人、宮川高一、植木彬夫、貴田岡正史、門脇孝：患者状態適応型パス統合シ  
ステム(PCAPS)による糖尿病低血糖管理パスの検討, 第 50 回日本糖尿病学会年次学術集会,  
仙台, 2007/5/26
- ・ 朝比奈崇介、調進一郎、西田賢司、住友秀孝、大野敦、名和知久礼、松下美加、藤井仁美、  
菅野一男、宮川高一、植木彬夫、原義人、貴田岡正史、門脇孝：患者状態適応型パス統合シ  
ステム(PCAPS)による循環式糖尿病外来管理パスの検討, 第 50 回日本糖尿病学会年次学術  
集会, 仙台, 2007/5/26
- ・ 青儀健二郎、高嶋成光：乳癌診療均てん化ツールとしての共通クリニカルパスの作成, 第  
107 回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2007/4/13
- ・ 高橋真冬、中野美由起：Front Line「情報共有による地域リソース一元化で脳梗塞の連携を  
推進」, バイエルインサイト, Vol.2 ユートブレイン LLC 合同会社(編), pp1-4, 2007/12
- ・ 高橋真冬：連携パス事例集 8, 脳卒中リハビリテーション連携パス, 日本リハビリテーショ  
ン医学会診療ガイドライン委員会・リハビリテーション連携パス策定委員会(編) 医学書  
院, pp.120-126, 2007/6

#### 【2007年度以前の業績】

- ・ 水流聡子, 棟近雅彦, 飯塚悦功(2006)：患者状態適応型パス(2)～医療の質改善への貢献～,  
パス最前線, Vol.7, 24-25, 2006.
- ・ 水流聡子, 棟近雅彦, 飯塚悦功(2006)：患者状態適応型パスと医療質経営, 品質, 36(2),  
160-170, 2006.

- ・ 飯塚悦功・棟近雅彦・水流聡子監修，患者状態適応パスシステム研究会編（2006）：医療の質安全保証を実現する患者状態適応型パス [事例集 2006 年版]，日本規格協会。
- ・ 飯塚 悦功，水流 聡子，棟近 雅彦，伊藤 雅治，飛永 晃二，永井 庸次，副島 秀久：DPC 評価改善ツール・質経営ツールとしての PCAPS(患者状態適応型パスシステム) ， 第 26 回 医療情報学連合大会プログラム・抄録集， p29， 2006
- ・ Sano MASATAKA, Masahiko MUNESHIKA, Iizuka YOSHINORI, Tsuru SATOKO: Patient Condition Adaptive Path System Data Analyzer for Healthcare Quality, Proc. 20th AQS, 2006.
- ・ Ryota AKAI, Dr. Satoko TSURU, Dr. Yoshinori IIZUKA, Dr. Masahiko MUNESHIKA, Shinichi YOSHII: Construction of the Coordinated Medical Treatment System by Design of the Regional Alliance Path, Proc. 20th AQS, 2006.
- ・ 水流 聡子：質安全を保証する患者状態適応型パス統合化システムーDPC 評価ツール・質経営ツールとしての PCAPSー，日本クリニカルパス学会誌，Vol.8 No.4， p358， 2006
- ・ 水流聡子，棟近雅彦，飯塚悦功：誌上アドバイスで疑問を解決！ 応用編 クリニカルパス作成講座 患者状態適応型パス，ナース専科，26 巻 4 号 Page82-87， 2006
- ・ 水流 聡子：患者状態適応型パス（1）-ねらいと構成-，すくえあ，August No. 526， pp8-12， 2006
- ・ 水流 聡子：患者状態適応型パス（2）-臨床プロセス標準化とその価値-，すくえあ，September No. 527， pp20-27， 2006
- ・ 水流聡子，飯塚悦功，棟近雅彦：視点 医療の質・安全を保証する患者状態適応型パスシステム(PCAPS)，保険診療，61 巻 7 号 Page113-117， 2006
- ・ 水流聡子：教育講演 I 患者状態適応型パスと POS，日本 POS 医療学会雑誌，V01. 12 No. 1， pp15-35， 2007
- ・ 伊藤宏之，中山治彦，加藤靖文，浅野久敏，中里顕英：呼吸器外科クリニカルパスでの SSI の把握と SSI 回復パス，日本外科感染症学会雑誌， vol.3 suppl 2006， p387， 2006
- ・ 二井谷友公、蒲生真紀夫、長島高宏：患者状態適応型パスシステム（PCAPS）による出血性消化性潰瘍パスの作成と多施設検証の試み，日本消化器内視鏡学会雑誌，vol. 48， suppl.2 p2112， 2006
- ・ 蒲生真紀夫、二井谷友公、長島高宏、阿子島裕則：患者状態適応型パスシステム（PCAPS）による総胆管結石内視鏡治療パスの作成と多施設検証の試み，日本消化器内視鏡学会雑誌，vol. 48， suppl.2 p2211， 2006
- ・ 蒲生真紀夫、水流聡子、棟近雅彦、飯塚悦功：患者状態適応型パスシステム（PCAPS）による胆管結石内視鏡治療パスの作成と分析の試み，日本マネジメント学会雑誌，7-1 p142， 2006
- ・ 蒲生真紀夫：患者状態適応型パスと内科系疾患における診療プロセスの標準化，日本クリニカルパス学会誌，vol.8 No. 4， p405， 2006
- ・ 織田順，山下勝之，井上卓也，上尾光弘，青木良記，河西克介，上山昌史：患者状態適応型

- パスシステムを用いた急性薬物(眠剤)中毒パスの構築, 中毒研, 19 巻 4 号 Page430-432, 2006
- 青儀健二郎, 高嶋成光, 新海哲, 河村進, 船田千秋, 岸本美子: 乳癌患者状態適応型クリニカルパスの作成とその検証, 日本癌治療学会誌, 41 巻 2 号 Page640, 2006
  - 蒲生真紀夫, 二井谷友公, 長島高宏, 阿子島裕倫: 患者状態適応型パスシステム(PCAPS)による総胆管結石内視鏡治療パスの作成と多施設検証の試み, Gastroenterological Endoscopy, 48 巻 Suppl. 2 Page2211, 2006
  - 二井谷友公, 蒲生真紀夫, 長島高宏: 患者状態適応型パスシステム(PCAPS)による出血性消化性潰瘍パスの作成と多施設検証の試み, Gastroenterological Endoscopy, 48 巻 Suppl. 2 Page2112, 2006
  - 久保実: 小児科もパスを作ろう 小児救急医療におけるクリニカルパス 小児科におけるパス導入の経験, 日本臨床救急医学会雑誌, 9 巻 4 号 Page348-352, 2006
  - 原義人: 脳梗塞の患者状態適応型クリニカルパス“PCAPS”と, その西多摩地区脳梗塞医療連携への拡大(青梅プロジェクト), 全国自治体病院協議会誌, 45 巻 7 号 Page976-981, 2006
  - 貴田岡正史:【対論 糖尿病診療】 糖尿病診療におけるクリニカルパスの有用性 Cons 患者状態にいかに対応した医療を行うか 医療の標準化と質の確保との両立, 糖尿病診療マスター, 4 巻 4 号 Page486-492, 2006
  - 佐野雅隆, 棟近雅彦, 飯塚悦功, 水流聡子: 患者状態適応型パス(PCAPS)のDPC対応に関する研究, 医療マネジメント学会雑誌, 7 巻 1 号 Page164, 2006
  - 永江浩史, 田中良典, 吉井慎一, 棟近雅彦, 水流聡子, 飯塚悦功: 急性腎盂腎炎緊急入院に対応する患者状態適応型パス(PCAPS)の検証, 医療マネジメント学会雑誌, 7 巻 1 号 Page143, 2006
  - 宮澤秀樹, 栗原正利, 奥村栄, 伊藤志門, 間瀬憲多朗, 矢野真: 患者状態適応型クリニカルパス 気胸治療における検証, 日本呼吸器外科学会雑誌, 20 巻 3 号 Page858, 2006
  - 片岡秀之, 柿澤公孝, 栗原正利: 当院における気胸治療の患者状態適応型パスの作成とその有用性, 日本呼吸器外科学会雑誌, 20 巻 3 号 Page857, 2006
  - 吉井慎一, 永江浩史, 田中良典, 副島秀久: 患者状態適応型パス統合システム(PCAPS)による経尿道的前立腺切除術パスの検討, 日本泌尿器科学会雑誌, 97 巻 2 号 Page319, 2006
  - 永江浩史, 田中良典, 吉井慎一, 副島秀久: UTI 緊急受診患者に対する患者状態適応型パス(PCAPS) 臨床プロセスチャートの試作, 日本泌尿器科学会雑誌, 97 巻 2 号 Page319, 2006
  - 田中良典, 永江浩史, 吉井慎一, 副島秀久: 患者状態適応型パス統合システム(PCAPS)による前立腺全摘術パスの使用経験, 日本泌尿器科学会雑誌, 97 巻 2 号 Page318, 2006
  - 吉田 茂: 川崎病の臨床プロセスチャート検証(予定), 近畿川崎病研究会, テイジンホール, 大阪市, 3月3日, 2007
  - 吉田 茂: 病院経営管理とクリニカルパス(予定), 小野市民病院講演, 小野市民病院, 小野市, 2月7日, 2007

- ・ 吉田 茂：患者状態適応型パスと DPC，日本クリニカルパス学会，熊本県立劇場コンサートホール，熊本市，11月18日，2006
- ・ 吉田 茂：患者状態適応型パス検証結果の報告（小児科領域），日本クリニカルパス学会，熊本県立劇場コンサートホール，熊本市，11月17日，2006
- ・ 吉田 茂：患者状態適応型パス検証結果の報告（小児科領域），日本小児科学会兵庫県地方会，姫路キャスパホール，姫路市，9月23日，2006
- ・ 吉田 茂：電子カルテにおけるクリティカルパス—市販データベースソフトを用いたクリティカルパスシステム—，日本医療マネジメント学会，パシフィコ横浜，横浜市，6月16日，2006
- ・ 吉田 茂：医療者自らが作成する診療情報システム—ファイルメーカー版患者状態適応型パスシステム (PCAPS) —，医療マネジメント学会福井県地方会講演，福井医療短期大学，福井市，5月21日，2006
- ・ 青儀健二郎、高嶋成光、新海 哲、河村 進、船田千秋、岸本美子：厚生労働科研究班による乳癌診療クリニカルパスの標準化の試み，第7回日本クリニカルパス学会学術総会，熊本，11/18，2006
- ・ 伊藤志門（名古屋大学医学部 呼吸器外科）：肺癌手術における術後経過に及ぼす要因 ～クリニカルパスでの検討～，第23回 日本呼吸器外科学会総会，横浜，5月25～27日，2006
- ・ 伊藤志門（名古屋大学医学部 呼吸器外科）：気胸治療における患者状態適応型クリニカルパスの検証，第10回 日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会，横浜，9月8～9日，2006
- ・ 伊藤志門（名古屋大学医学部 呼吸器外科）：肺癌手術におけるクリニカルパスの適応 ～いかにリスクを評価するか～，第7回 日本クリニカルパス学会総会，熊本，11月17～18日，2006
- ・ 深谷 由希子，伊藤 志門：呼吸器外科術後患者の利尿剤使用についての検討，第7回 日本クリニカルパス学会総会，11月17～18日，2006
- ・ 中道 朝香，伊藤 志門：看護師によるアウトカム評価の検討，第7回 日本クリニカルパス学会総会，熊本，11月17～18日，2006
- ・ 吉田 茂：医療安全と質を保証する患者状態適応型クリニカルパス，社団法人愛知県看護協会講演，名古屋国際会議場，名古屋市，1月17日，2007
- ・ 吉田 茂：クリニカルパスについて—基礎から最新事情まで—，成田記念病院講演，成田記念病院，愛知県豊橋市，10月27日，2006
- ・ 吉田 茂：患者状態適応型パスを解剖する「患者状態適応型パス運用システムの実際」，近畿クリニカルパス研究会講演，国立大阪医療センター，大阪市，10月21日，2006
- ・ 吉田 茂：患者状態適応型パス (PCAPS) を用いた小児市中肺炎の標準化について，山梨小児標準医療研究会講演，山梨大学医学部附属病院，山梨県中央市，9月13日，2006
- ・ 吉田 茂：小児科領域での地域連携パスの試み，京都西南部小児科地域連携の会講演，京

都リサーチパーク， 京都市， 10月14日， 2006

- ・ 蒲生真紀夫：患者状態適応型パスシステムと医療連携パス， 宮城県診療情報管理研究会， 4月22日， 仙台市， 仙台医療センター講堂， 2006
- ・ 蒲生真紀夫：「患者状態適応型パスとは？ 診療面および経営面からの評価」， NEC 医療セミナーin Tokyo 2007， 京都， NEC 本社ビル， 2月23日， 2007
- ・ 高橋真冬：患者状態適応型パスシステムを用いた地域連携用パス， 日本病院会 医療の質を考えるセミナー， 青梅市立総合病院 東京都青梅市， 4月29日， 2006
- ・ 高橋真冬：患者状態適応型パスシステムを用いた地域連携用パス， 第11回愛知クリニカルパス研究会 特別講演， 愛知県名古屋市， 名古屋第二赤十字病院， 6月10日， 2006
- ・ 高橋真冬：患者状態適応型パスを用いた脳梗塞の地域医療福祉連携用パス， 武蔵野・三鷹・小金井医師会および職員研修会講演， 武蔵野赤十字病院， 東京都武蔵野市， 7月31日， 2006
- ・ 高橋真冬：患者状態適応型パスシステムによる脳梗塞の地域医療福祉連携， 第五回東北厚生年金病院クリニカルパス大会 講演， 東北厚生年金病院， 宮城県仙台市， 10月31日， 2006
- ・ 高橋真冬：患者状態適応型パスシステムによる脳梗塞の地域医療福祉連携「患者情報シートの効用」， 西多摩医師会講演， 青梅市立総合病院 東京都青梅市， 11月06日， 2006
- ・ 水流聡子、棟近雅彦、飯塚悦功：患者状態適応型パス―「プロセス管理」と「標準化」の組み込み―. パス最前線， pp18-19， 2005
- ・ 岸村俊哉、水流聡子、飯塚悦功、棟近雅彦：患者状態適応型パスデータの活用―患者データ構造と臨床プロセス解析に関する研究―. 日本品質管理学会第77回年研究発表会研究発表要旨集， 2005， pp27-30
- ・ 松本健、水流聡子、飯塚悦功：移動先決定プロセスモデルの設計. 日本品質管理学会第77回年研究発表会研究発表要旨集， 2005， pp31-34
- ・ 高橋宏行、水流聡子、飯塚悦功：転倒・転落事故における患者リスク評価方法の提案. 日本品質管理学会第77回年研究発表会研究発表要旨集， 2005， pp39-42
- ・ 水流聡子、飯塚悦功、棟近雅彦：質安全保証を実現する患者状態適応型パスの開発―臨床プロセスチャートのカルテ検証調査―. 日本品質管理学会第77回年研究発表会研究発表要旨集， 2005， pp23-26
- ・ 飯塚悦功、水流聡子、棟近雅彦：患者状態適応型パスシステムに込めた医療質マネジメントの思想. 看護管理, Vol. 15 No. 11, pp886-891, 2005
- ・ 水流聡子、棟近雅彦、飯塚悦功：患者状態適応型パスによる標準臨床プロセスの可視化と電子化. 看護管理, Vol. 15 No. 11, pp898-906, 2005
- ・ 棟近雅彦、水流聡子、飯塚悦功：患者状態適応型パスによる標準臨床プロセスの実施と医療質安全保証. 看護管理, Vol. 15 No. 11, pp892-897, 2005
- ・ 棟近雅彦、水流聡子、飯塚悦功：患者状態適応型パスと医療の質安全保証. 医療マネジメント学会雑誌， 6-1， 第7回医療マネジメント学会学術総会抄録， p115
- ・ 飯塚悦功、水流聡子、棟近雅彦：医療の質安全保証と医療質経営， 6-1， 第7回医療マネジ

メント学会学術総会抄録, p115

- ・ 水流聡子、棟近雅彦、飯塚悦功：ツールとしての患者状態適応型パスシステム. 医療マネジメント学会雑誌, 6-1, 第7回医療マネジメント学会学術総会抄録, p116
- ・ 赤井亮太、水流聡子、飯塚悦功、棟近雅彦、吉井慎一：患者状態適応型パスを用いた地域連携のためのパス設計—地域連携パス作成プロセスの提案—. 日本品質管理学会第35回年次大会 研究発表会 研究発表要旨集, 2005, pp61-64
- ・ 岸村俊哉、水流聡子、飯塚悦功、棟近雅彦：PCAPS Analyzer: 患者状態適応型パスデータ分析システムの構築. 日本品質管理学会第35回年次大会 研究発表会 研究発表要旨集, 2005, pp65-68
- ・ 加藤省吾、水流聡子、高橋真冬、飯塚悦功：“退院の質”向上を目指す退院調整業務プロセスの設計. 日本品質管理学会第35回年次大会 研究発表会 研究発表要旨集, 2005, pp73-76
- ・ 急性期病院での退院調整における転院先決定プロセスの設計—療養型病院および福祉施設における受け入れ条件の特定—. 日本品質管理学会第35回年次大会 研究発表会 研究発表要旨集, 2005, pp77-80
- ・ 飯塚悦功：患者状態適応型パスシステムに込めた医療質マネジメントの思想. 日本クリニカルパス学会誌 第6回日本クリニカルパス学会学術集会抄録集, 2005. Vol. 7 No. 3 (P267)
- ・ 水流聡子、棟近雅彦、飯塚悦功：患者状態適応型パスで可視化される臨床実践プロセス. 日本クリニカルパス学会誌 第6回日本クリニカルパス学会学術集会抄録集, 2005. Vol. 7 No. 3 (P268)
- ・ 棟近雅彦、水流聡子、飯塚悦功：プロセス標準化がもたらす質安全保証と質経営. 日本クリニカルパス学会誌 第6回日本クリニカルパス学会学術集会抄録集, 2005. Vol. 7 No. 3 (P268)
- ・ 飯塚悦功：医療の質安全保証と医療質経営を実現する患者状態適応型パスシステム. 第25回医療情報学連合大会抄録集, 2005, pp152-153
- ・ 水流聡子、棟近雅彦、飯塚悦功：患者状態適応型パスによる医療安全と質保証—標準化と臨床プロセス管理による持続成長可能な医療の質改善システム—. 第25回医療情報学連合大会抄録集, 2005, pp154-157
- ・ 飯塚悦功、棟近雅彦、水流聡子：医療の質安全保証を実現する患者状態適応型パス[事例集2005年版], 日本規格協会, 東京, 2005
- ・ 飯田修平、飯塚悦功、棟近雅彦：医療の質用語辞典, 日本規格協会, 東京, 2005
- ・ Shogo KATO, Satoko TSURU, Yoshinori IIZUKA: Study of a Model for the Discharge Coordinating Process - Development of the “Unit for Coordinating Home Care” based on the “Model for Elderly Care Plans”. 3rd Asian Network for Quality Congress, Taipei, Taiwan, September 20-23, 2005, CD-ROM total 8p(full paper)
- ・ Toshiya KISHIMURA, Satoko TSURU, Yoshinori IIZUKA: Development of Patient Condition

- Adaptive Path Data Analyzer. 3rd Asian Network for Quality Congress, Taipei, Taiwan, September 20-23, 2005, CD-ROM total 7p (full paper)
- Hiroyuki TAKAHASHI, Satoko TSURU, Yoshinori IIZUKA: A Method for Risk Assessment of Patient's Falls in Hospital. 3rd Asian Network for Quality Congress, Taipei, Taiwan, September 20-23, 2005, CD-ROM total 3p (full paper)
  - Tetsuo SHIWAKU, Masaaki KANEKO, Satoko TSURU, Yoshinori IIZUKA, Masahiko MUNECHIKA: Inhibition Factors in Implementing and Promoting QMS in a Hospital. 3rd Asian Network for Quality Congress, Taipei, Taiwan, September 20-23, 2005, CD-ROM total 6p (full paper)
  - Takeshi Matsumoto, Satoko Tsuru, Yoshinori Iizuka, Shogo Kato, Kenichi Uchida, Tetsuo Shiwaku, Mafuyu Takahashi: Designing a Discharge Coordinating Process Model -Designing a Fixing a Chronic Hospital or Nursing-Care Facility Process. 3rd Asian Network for Quality Congress, Taipei, Taiwan, September 20-23, 2005, CD-ROM total 5P (full paper)
  - 飯塚悦功: 診療プロセス質保証システムの確立 -質保証のための標準化の意義と方法論-. 第24回医療情報学連合大会抄録集, 2004, p138
  - 飯塚悦功, 信友浩一: クリニカルパスを基軸とした診療プロセス質保証システムの確立. 第24回医療情報学連合大会抄録集, 2004, p138
  - 水流聡子, 飯塚悦功: 患者状態適応型クリニカルパス -多様性を考慮した診療プロセス標準化への道-. 第24回医療情報学連合大会抄録集, 2004, p139・水流聡子・飯塚悦功: 患者状態適応型クリニカルパスとは? -医療の質マネジメントの視点から-, Nursing Today, 19 (11) 別冊, 67-69, 2004
  - 津久間秀彦, 水流聡子, 飯塚悦孝, 高橋真冬, 矢野真, 永井庸次: 患者参画型チーム医療の設計 -“患者本位”と“安全管理”の視点の組み込み-. 医療情報学 Vol.24 No.1 (April2004) pp237-240
  - Shogo KATO, Satoko TSURU, Mafuyu TAKAHASHI, Yoshinori IIZUKA: Development of a model for elderly care plans based on analysis of the reality in providing cares. 2nd Asian Network for Quality Congress, New Delhi, India, August 15-19, 2004, CD-ROM total 8p (full paper)
  - Tetsuo SHIWAKU, Mafuyu TAKAHASHI, Satoko TSURU, Yoshinori IIZUKA: Design the Clinical Decision Analysis Model. 2nd Asian Network for Quality Congress, New Delhi, India, August 15-19, 2004, CD-ROM total 8p (full paper)
  - 水流聡子, 飯塚悦功, 棟近雅彦, 永井庸次, 飯田修平: 「患者状態を基軸とする医療」を支援する患者状態適応型クリニカルパスシステムの開発. 日本品質管理学会第34回年次大会研究発表要旨集, 2004, pp23-26
  - 塩飽哲生 高橋真冬 水流聡子 飯塚悦功: 病態因果メカニズムの知識と構造化. 日本品質

管理学会第 34 回年次大会研究発表要旨集, 2004, pp19-22

- ・ 飯塚悦功: ISO 9000 のこれまでとこれから, クオリティマネジメント, 54(1), 8-14, 2003
- ・ 上原鳴夫, 黒田, 飯塚悦功, 棟近雅彦, 小柳津正彦: 医療の質マネジメントシステム~医療機関における ISO 9001 の活用~, 日本規格協会, 2003.
- ・ 「TR Q 0006 自己評価の指針」活用研究会編, TR Q 0006 「クオリティマネジメントシステム-自己評価の指針」活用ガイド, 日本規格協会, 2003.
- ・ Shogo Kato, Takayuki Imai and Yoshinori Iizuka: A Model for Creating Elderly Care Plans, Proc. 17th Asia Quality Symposium, 41-48, 2003.
- ・ T. Shiwaku, K. Gemba and Y. Iizuka: The Process Flow for Diagnosis to Guarantee Quality of Healthcare Proc. 17th Asia Quality Symposium, 78-84, 2003.
- ・ Masahiro Imai, Yuki Matsukawa, Yasuhiko Tamura and Yoshinori Iizuka: A Study on Knowledge Structures for Proactive Prevention of Failures on Process Design, Proc. 17th Asia Quality Symposium, 188-195, 2003.
- ・ Yoshie Hiraoka, Shizuo Ito and Yoshinori Iizuka: Clinical Pathway Adaptive to Patient Condition Proc. 17th Asia Quality Symposium, 603-609, 2003.
- ・ Teppei Isayama, Naoko Yokoi and Yoshinori Iizuka: Error Prediction and Prevention by Structured Knowledge in Medication Process Proc. 17th Asia Quality Symposium, 616-621, 2003.
- ・ Yuki Matsukawa, Masahiro Imai, Yasuhiko Tamura and Yoshinori Iizuka: Predictive Analysis of Failure Mechanisms based on Restructuring Process FMEA Proc. 17th Asia Quality Symposium, 892-897, 2003.
- ・ 飯塚悦功: 組織の成長・発展のカギとなる QMS の有効活用, JQA ISO Network, 1, 2-7, 2003.
- ・ 飯塚悦功: ISO を切り拓いた人たち, アイソムズ, 2003 October, Vol.97, 12-15, 2003.
- ・ 飯塚悦功: ISO 9001:2000 の有効活用, 標準化と品質管理, 56(8), 14-18, 2003
- ・ 飯塚悦功: 「医療の質」への取り組みの原則, 病院, 62(7), 578-579
- ・ 飯塚悦功: 社会技術としての医療安全技術~システム工学からみた安全文化~, インターナショナルナーシングレビュー, 26(4), 66-72, 2003.
- ・ 飯塚悦功: 新 QMS モデルへの挑戦, 標準化と品質管理, 56(6), 4-13, 2003
- ・ 飯塚悦功: 丸山昇, 慈道順一, 超 ISO 企業, 日科技連出版, 東京, 2003.
- ・ 飯塚悦功: 社会技術としての医療安全, 社会保険旬報,
- ・ 飯塚悦功: 体制内改善から体制の建設的否定へ~QMS の革新を唱える三層構造モデルを提起~, アイソス, 66, 20-28, 2003.
- ・ 飯塚悦功, 平岡佳恵: クリニカルパスによる医療プロセス標準化への道, Progress in Medicine, 23(5), 1359-1364, 2003.
- ・ 飯塚悦功: ISO 9000:2000 改訂の意図(1), ISO 9001:2000 の基本的性格, クオリティマネジメント Quality Management, 53(1), 62-66, 2002.



- 飯塚悦功: ISO 9000:2000 改訂の意図(2), ISO 9001 の QMS, クオリティマネジメント Quality Management, 53(2), 61-65, 2002.
- Yoshinori Iizuka, Quality Policy, Quality Objectives, and Planning, Charles A. Cianfrani, Joseph J. Tsiakals and John E. (Jack) West ed., The ASQ ISO 9000:2000 Handbook, Chapter 14, 158-179, 2002.
- 田村泰彦, 飯塚悦功: 不具合に関する設計知識の運用に関する研究～不具合に至る因果連鎖の知識構造の構築～, 品質 Quality, 32(1), 122-135, 2002.
- Yoshihiro Mori, Kenichi Uemura, and Yoshinori Iizuka: Whole-Surface Analysis of Semiconductor Wafers by Accumulating Short-Time Mapping Data of Total-Reflection X-ray Fluorescence Spectrometry, Analytical Chemistry, 74, 1104-1110 (2002).
- 森良弘, 上村賢一, 飯塚悦功: 多点マッピング全反射蛍光 X 線分析によるシリコンウェハ全面平均濃度分析に関する統計学的検討, X 線分析の進歩 33 集, 155-174 (2002).
- Yoshihiro Mori, Kenichi Uemura, and Yoshinori Iizuka: Statistics for the accumulation of multi-point mapping of TXRF for the whole-surface analysis of silicon wafers, Advances in X-ray Chemical Analysis, Japan, 33, 155-174 (2002).
- 飯塚悦功: 医療プロセスにおけるエラー防止—システム工学の立場から, クリニシアン Clinician, vol. 49, no. 510, 104-112.
- 飯塚悦功: 新しいクオリティマネジメントの原則, 標準化と品質管理 Standardization and Quality Control, 55(6), 32-39, 2002.
- 飯塚悦功, 金子龍三: 問題発見力・問題分析力を高める, 品質 Quality, 32(2), 25-34, 2002.
- Yasuharu Nishi and Yoshinori Iizuka: Resource Oriented Stress Testing, Systems and Computers in Japan (採録判定済・出版準備中)
- Yasuharu Nishi and Yoshinori Iizuka: Design of Configuration Testing, Systems and Computers in Japan (採録判定済・出版準備中)
- 飯塚悦功: ISO 9001:2000 の有効活用—総括—標準化と品質管理 Standardization and Quality Control, 55(8), 37-44, 2002.
- Tomomichi Suzuki, Takayuki Imai, Toru Yaezawa, Tadahiro Wakasugi, Yoshinori Iizuka, and Yoshikazu Ojima: A Process Model for Deciding Elderly Cares The Asian Journal on Quality, 3(1), 145-152, 2002.
- 飯塚悦功: 医療社会システムのあるべき姿を求めて, 看護部マネジメント編, No. 150, 54-60, 2002
- 飯塚悦功, 棟近雅彦, 住本守, 加藤重信: ISO 9000 要求事項及び用語の解説, 日本規格協会, 東京, 2002.
- Yoshie Hiraoka, Shizuo Ito and Yoshinori Iizuka: Clinical Pathway Adaptive to Patient Condition Proc. 16th Asia Quality Symposium, 228-236, 2002.
- Takayuki Imai, Shogo Kato, Tomomichi Suzuki and Yoshinori Iizuka: A Model for Creating

【申請中の特許】

<国内特許出願>

- ・ 飯塚悦功, 水流聡子: 医療プロセス質管理システム, 医療プロセス質管理方法  
出願番号: 特願 2004-340330, 2004年11月25日申請
- ・ 飯塚悦功, 水流聡子, 棟近雅彦: 医療プロセスチャート作成支援装置  
出願番号: 特願 2005-321372, 2005年11月4日申請

<国際特許出願>

- ・ 飯塚悦功, 水流聡子, 棟近雅彦: 医療プロセス質管理システム, 医療プロセス質管理方法  
出願番号: 特願 2004-340330, 2005年11月25日申請

<国際特許出願 (日本) >

- ・ 飯塚悦功, 水流聡子, 棟近雅彦: 医療プロセス質管理システム, 医療プロセス質管理方法  
出願番号: 特願 2006-547849, 2007年3月1日申請

<商標登録>

- ・ 飯塚悦功・水流聡子・棟近雅彦: PCAPS Builder/ヒューマン・ビルダー  
出願番号: 商願 2006-5785, 区分: 国際分類第9類, 当所番号: T112-0005, 登録番号: 第4994162号, 登録日: 2006年10月6日
- ・ 飯塚悦功・水流聡子・棟近雅彦: PCAPS Administrator/ヒューマン・アドミニストレーター  
出願番号: 商願 2006-5786, 区分: 国際分類第9類, 当所番号: T112-0006, 登録番号: 第4994163号, 登録日: 2006年10月6日
- ・ 飯塚悦功・水流聡子・棟近雅彦: PCAPS Analyzer/ヒューマン・アナライザー  
出願番号: 商願 2006-5787, 区分: 国際分類第9類, 当所番号: T112-0007, 登録番号: 第4994164号, 登録日: 2006年10月6日
- ・ 飯塚悦功・水流聡子・棟近雅彦: PCAPS/ヒューマン  
出願番号: 商願 2006-5782, 区分: 国際分類第9類, 当所番号: T112-0002, 登録番号: 第5002964号, 登録日: 2006年11月10日
- ・ 飯塚悦功・水流聡子・棟近雅彦: Intelligence Modeling Technology  
出願番号: 商願 2006-5784, 区分: 国際分類第9、42類, 当所番号: T112-0004, 登録番号: 第5002965号, 登録日: 2006年11月11日

<商標登録出願>

- ・ 飯塚悦功・水流聡子・棟近雅彦：PCAPS/患者状態適応型パス

出願番号：商願 2007-18032，区分：国際分類第 9 類，当所番号：T112-0008

<ソフトウェア>

- ・ PCAPS コンテンツ作成支援システム PCAPS-Builder α 版，β 版

<取材>

朝日新聞，読売新聞，日経産業新聞，週間社会保障，じほう等々

## 資料

平成 19 年 9 月 15 日開催：平成 19 年度中間成果報告シンポジウムプログラムパンフレット

平成 20 年 3 月 8 日開催：平成 19 年度最終成果報告シンポジウムリーフレット